「なぁごめん、鹿島さんちょっとこれコピーしといて」
「……置いといてください
あ、●●さん、外線３番、●●商事さんからです、電話出てください」
「はぁ……くそ忙しいな……
もう１２時か……こんなんじゃ
今日中にこれ、終わんないぞ」
真上から日が射す
騒がしいオフィスの片隅にある
オレのデスクは今日中に
終わらせなきゃならない仕事の資料でごった返している。
「時間が止まってくれたらいいのにな」
「●●さん、電話」
「はいはい、出ますよ
外線３番ですね」
「●●商事が正午１２時をお知らせします
ぴ……ぴ……ぴ……」

「もしもし、お疲れ様です
お電話変わりました●●です」

「……」

「もしもし？　あれ？
もしもーし？　ん？　電波悪いんですかね？
あれぇ？　すみません、一回かけなおしますね？」

かちゃりと電話を置くと俺は違和感に気がつく。

「え？」

あんなに騒がしかったオフィスが
静まり返っていたのだ

「あ、あの？」

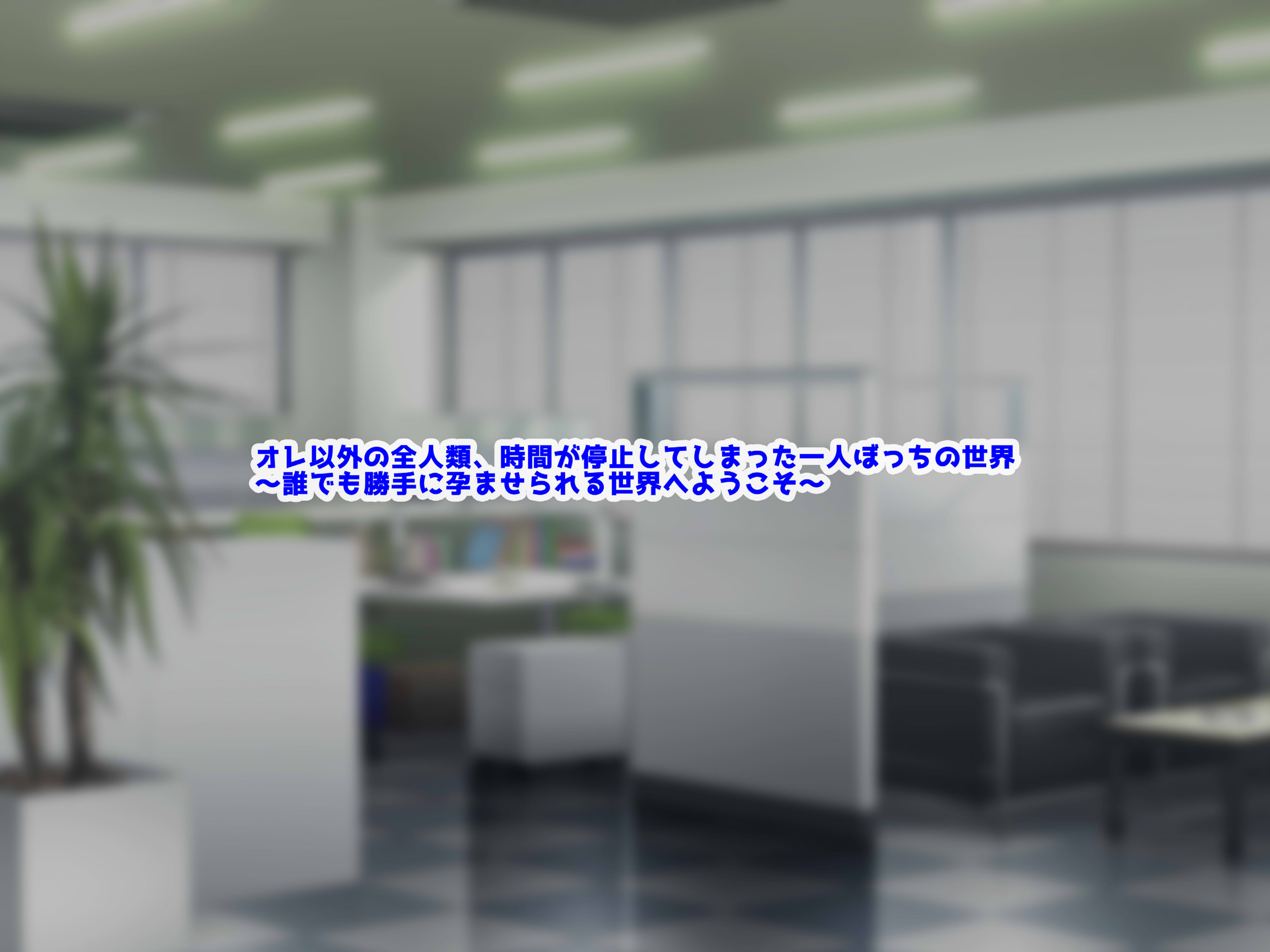
資料をまとめる先輩も
コピー機の前のOLさんも
みんながピタリと止まり動かない。

「鹿島さん、なぁ
どうなってるんだ？　なぁ？」

隣の席の同僚の肩をゆするが返事はない。

「なんだよ　どっきりか？
忙しいってのにばかばかしい」

俺は焦り、空気を換えようと窓を開ける
すると、そこには驚くべき光景が広がっていた。
「おい、うそだろ……」
道行く人はピクリとも動かない
それどころか、車も信号も
公園の噴水すら、水を噴き出したままぴたりと止まっていた。
オフィスの時計に目をやると
11時59分でピタリと針が止まっている。
鳴るはずの時報もぽんとならない。
「おい……これもしかして
時間が、止まってるのか？」


オレ以外の全人類、時間が停止してしまった一人ぼっちの世界
～誰でも勝手に孕ませられる世界へようこそ～

それから数時間、オレは
オフィスやその周辺を見て回った。
しかしそれでも辺りに動くものはない。
時間停止した世界になった……
と考える以外他にはなかった。
オレは諦め、自分の席に付き
肩を落とす。
「マジかよ……
どうなってるんだ」
「オレ以外の全人類
時間が止まってるのか」
「なぁ、どうしろっていうんだよ……
なんだよこれ？」
隣の席の鹿島さんに
声をかけるが帰ってこない。

「……本当に動かないのか？」
俺のナカでいけない好奇心があふれ出てくる
「……ちょっと試してみるか？」
「ふう、ふう……よし」
俺は意を決して、隣の席のいつも一緒に仕事している
鹿島さんをデスクに押し倒した。

「はぁ、はぁ、ほ、ホントに動かない……服、脱がせちゃったよ……」
「ふふふ、鹿島さん……いつも思ってたけどやっぱり、こうしてみると可愛いね」
「ねえ、ホントに動けないの？動けないんだったら……俺の咥えさせちゃうよ？」
ペル♡
ペル♡
ドキ♡
ドク♡
ハァー♡ハァー♡
ドキ♡
ドキ♡
ドキ♡
ドク♡
パンツスジうりちゃって♡

ぐぽ、ぐぽ、ぐぽぽ、
ぷる、ぷる、
ぷる、ぷる、
ぷるぷる、
ぷるぷる、
ロッカ、あったかい
ハァハァ、あっ、あっ、
「これは、すごい、なんて破壊力」
「一番なにこの事件、入ってきたそこにきた」
「風呂入ってはいるときのようなもの」

「んぐ、鹿島さんの口のナカあったけえ動かすと舌絡まって来るよ」

「これすげえ、きもちいオフィスでこんな事、くっみんないるのに」

ポロ

ポロ

ポロ

「やべ、もう出ちゃいそう
いいよね？鹿島さん
もう、オレ我慢できないよ」
「出ちゃうからね？
イクよ？くっ、
ううう！」
ぷるっ
ぷるっ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
んぐっ
イクっ
イクっ
でる
あっ
ちょ
イグっ
イクっ

ぶびゅるるるるるっ
ぶびゅるるるるるっ
ぶびゅるるるるるっ
ぶびゅるるるるるっ
口の中でっ
あっ、ダメ
でっ
でたかっ
女の子っ
「ぐっ、ゲホッ、ゲホッ、ゲホッ

ドロ
ドロ
ドロ

「はぁ、はぁ、か、鹿島さん
こっちも、ヤラせてもらうね？」
「くっ、はぁ、これ擦るの
鹿島さんのまんこで擦るの、
超気持ちい」
ハァーッ♡
フゥーッ♡
ドロ♡
ドロ♡
ズリ♡
ビクッ
グチュ♡
ビクッ
シコ♡
ズリ♡
シコ♡
ビクッ
グチュ♡
フーッ♡
フーッ♡

「んっ、鹿島さんの可愛いストッキング越しのまんこでちんぽ、ぐちょぐちょになる」

「あっ、はぁ、やべ、また出るんっ、くっ！鹿島さん！おまんこでちんぽ擦ってまたイクよ！」

ドロ♡

ドロ♡

しろぉ♡

しろぉ♡

プル♡

ぷる♡

スマタでぇ♡でる♡

スリッ♡

ビクッ♡

チュッ♡

スリッ♡

ビクッ♡

チュッ♡

んぐっ♡あ♡でるんっ♡

「んくっ！　ももっ！　出るっ！　はもももっ！　出るっ！
くっくっくっ！」
「ホントのちんぽから無理やりの射精！
出る濃ミルクが、大量にいっぱいちゃんとでるよ！」
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「はぁー、うっわ……すっげぇ出た」
「鹿島さん、オレの精液で体中どろっどろっじゃん」
「これすっげぇエロイ……」
どろぉ
どろぉ…
どろぉ
どろぉ
どろぉ
どろぉ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「じゃ、じゃあ藤堂さん……
このまま生で
セックスしちゃうからね？」

「ホ、ホントにやるの？」

ビクッ

ビクッ

ビクッ

「まら、抵抗しないと、いいんじゃない？」
「はは、はは、はは、全然動かない！」
ビリッ
ビリッ
ビリッ
ビリッ
ハァ、ハァ
ハァ、ハァ
ハァ、ハァ
ハァ、ハァ
ハァ、ハァ
ハァ、ハァ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「くっ、人っ
大臣さんのまんこに、
ムしのちんぽを勝手に入れちゃったら」
「すげえ最強ちょい
なんだこの絶おっぱい」
ビッ
ビッ
ビッ

「こんなに自由に、セックス出来るなんて
この時間が止まった世界、
なんて良い世界なんだ」
「じゃ、抵抗出来ない鹿島さんの
絡みつく膣、たっぷり堪能
させてもらうからね？」
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

「うはぁ、動くたびに、鹿島さんのおまんこ吸い付いてくる、これ、すげえ」

「鹿島さん、いつも大人しいのにホントはこんなにえっちな子だったんだ」

あっ♡あっ♡くっ♡うっ♡

ぐちゅ♡

パン♡

ぐちゅ♡

ビクッ♡

どろっ♡

どろ♡

どろぉ♡

どろ♡

あっ♡きもちっ♡んっ♡うっ♡

パン♡

ぐちゅ

ビクッ♡

「抵抗できない無垢な乙女
スケベ・サンプル
無理矢理……させて　させる」

「やべ　まだ出ちゃいそうなんだ」

ぶっ
ぶっ
ぶっ

「んっ、くっ、こんなに激しくしても
まったく表情かえずに、
オレのちんぽ
受け入れてる、はぁ、はぁ」

「これ、たまんねぇ
あぁっ、射精る射精る射精る！」

「オフィスの皆の前で、
生セックスして
鹿島さんに中出しして
孕ませちゃうからね？
いいよね？」

ビクッ
ビクッ
ビクッ

「あああ！　くああ！
射精たぁ！　んはぁ！」
「くっ！　鹿島さんの
おまんこの一番奥で
こんなにいっぱい！　くぅう！」
「やべぇ　中出し止んない！」
ぐっでる、
うっでる、
びゅるるる、
どぅ、
どぐっ、
ぢゅぐ　ぢゅ、
びゅぐっ、
ビュク、ビュ、
ビュク、ビュ、
ぁっ、
ぐっ、
びゅぐっ、
ビュク、
ビュ、
ビュク、

「はぁ、はぁ、出たぁ……
鹿島さんに子種ミルク
すげぇ、射精しちゃった……」

「ははっ、ははは……
やりたい放題じゃねぇか……」

ハァ♥ハァ♥
フーッ♥

どろぉ♥

どろぉ♥

どろぉ♥

どろぉぉぉ♥

どろぉ♥

ビクッ♥

ビクッ♥

ビクッ♥

ビクッ♥

ビクッ♥

ビクッ♥

いっぱいでたぁ
フーッ♥

「くふふふふ、ちんぽ抜いたらこんなにいっぱい膣のナカで出しちゃったうわぁ、どんどん出てくる……」

「ふふ、ふふふ、この世界やばいな……よし……この時間の止まった世界たっぷり満喫させてもらおうかな」

「そうと決まれば、オフィスの可愛い女の子片っ端から犯してやるふふ、ふふふふふ！」

ぶるぶる

ぶるぶる

ぶるぶる

ぶるぶる

ハァハァ
ハァンハァ

ドピュ

ドピュ

ドピュ

それからオレは、
しばらく、オフィス内を
歩き、可愛い女の子を見つけては
疲れ果てるまで
中出しセックスし続けた。

「さて……次はどの子とエッチしようかふふふ」

「ん……警備員の子……確か葉月さんだっけか、いつも愛想無くて関心薄かったけど……結構可愛いよな」

「こんな無表情な子だったけどおまんこの具合はどうなのかな？」

「ちょっと脱がせてみるか」

「へぇ、葉月さん、結構胸もおっきくておまんこも綺麗じゃないか」
「くっ、うっ こうやってちんぽ押し当ててるだけでも気持ちいい……」
ハァ♥ フゥ♥ まんこ♥ きもち♥ くっ♥
プル♥
プル♥
ビグッ
ビグッ
ズリ♥
ズリ♥
ズリ♥
ズリ♥
クチュ
クチュ
プル♥
クッ♥ ふ♥ フーッ♥

あぁっ♥
きもちっ♥ うぐっ♥
あぁでそ♥
グチュ
ビグ
グチュ
ビグ
グチュ
グチュ
グチュ
プル
プル
あっ♥あっ♥
でるでる♥
「よし、たっぷり擦って
オレの精液ぶっかけてあげるよ」
「はぁ、はぁ、こうやって
クリトリスに
ちんぽ擦られるの
気持ちいいだろ？」
「くっ、あっ、もう
射精る！ ああっ！
射精すぞ！ 身体で
精液全部受け止めて！」

「くぅぅぅぅぅ！射精たぁ！
はっ！はぁ！んぐ！」
「うぅぅっ！まだ射精る！
はぁ！んんぐ！」
ドキ
ドプッ
ビュッ
ビュルル
ビグッ
ビッ
あっぐっ
でるっ
プル
うっぐっ
あっあっ
プル

ハァ♥ハァ♥
フーッ♥フーッ♥
ビクッ
どっ
ビクッ
ビクッ
どろ
どろ
どろ
ドロ…♥
どろおお♥
どろおおお♥
ぐたぁ…♥
うっ♥うう♥
「ふう、ふう、気持ちよかったぁ
くふふ、あーあ、体中オレの精液で
べったりじゃん……」
「葉月さんの事こんなに
汚しちゃった
ふふ」

「じゃ、次は膣内にオレのちんぽ入れちゃうからね？」
「ほら、抵抗しないと入っちゃうぞ？」
「ああ、みちみちってちんぽが中に沈んで……」
ハァ♡ハァ♡
入る♡うぐっ♡
ブプ♡
ジュププ♡プ♡
ブプ♡ブチュ♡
どろ♡
どろお♡
どろお♡
どろ♡
なーくっ♡
ナカ♡うっ♡

「あはぁ、入っちゃったぁ
くふふ、あー葉月さんの膣内
あったけ」
「んぅ狭くはないけど
すごい良い締まりだね」
「身体鍛えてるのかな？」
「葉月さん、じゃ
このまま動かして、おまんこ
堪能しちゃうからね？」
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ハァ♡ 入ったぁ♡
ぐっ♡んっ♡ぐっ♡

ビクッ
ビクッ
ゴッ
ゴッ
ビクッ
ズポッ
パチュン
うぐっ♡うぅ♡
プル
ズポッ
ズポッ♡
ズポッ
パチュン
ぐっ♡うぅ♡
プル
「突くたびにおっきいおっぱい揺れて、こ、興奮するな！」
「ふっ、ふっ、んぅ！それに、くはぁ、すげぇ締め付け動かすたびに膣の肉がちんぽに絡んでくる」
「これ、超気持ちいい！くっ、はぁ、はぁ、時間が止まってるのにこんなにチンポに絡みついてくるなんて葉月さん、えっちなんだね」

「もう出る！くっ
あ、やばぁ！んっ
このまま、ナカで
葉月さんの膣内で！」
「精液出しちゃうよ！
オレの子供孕んじゃえ！」
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「くっ、イク、イク！あー射精ちゃってる！んっ、んっ！」
「葉月さんの膣内でくっ、精液、どくどくって！」
ゴジュ
ビクッ
ビュグッ
ビュグッ
ベュルル
ゴジュ
ビクッ
ドグッ
ドプッ
ベチャる
ベチャぐぅ
プル
プル
あーっ
イグッ
イグッ
あーっ

ビクッ
タプッ
ドロォ
ドク ドク
ハァ ハァ
フーッ
ビクッ
ゴプ ドク
ゴプッ ドク
ビュ
ビュ
どろぉ
どろぉ
ビュ
ビュ
フーッ フーッ
「はぁー射精たぁ……ふぅー……葉月さんのおまんこに直接射精しちゃった……」
「で、でも、だめだ、もう一回……もう一回しちゃうね葉月さん」
「こんなおまんこ、気持ちよすぎて一回射精しただけじゃ、満足出来ないよ！」
「オレの精液まみれでぐちょぐちょのおまんこで、もう一回……」

「くっ！　すげ！　やっぱ葉月さんのおまんこめちゃくちゃ気持ちい」
「はぁ　はっ　精液でドロドロだからさっきより攻めやすいな、くっ、もっと深くまで突いてあげるからね！」
「子宮口にごつごつって亀頭ぶつけて、気持ちよくしてあげるからね！」
ビクッ
ゴッ
ゴッ
ビクッ
パン
パン
パン
ぺるっ

ブッチュ
ビクッ
ゴッ
ゴッ
プル
ビクッ
ブッチュ
パチュ
パン
ゴッ
パチュ
パン
プル
ぐるぐる
あっ
ズッ
「ああっ！葉月さん！またっ！
また出るよ！葉月さんの
おまんこの一番深いとこに
精液また射精しちゃうからね！」
「くっ イクイクイク！
あー射精る！」

「あああっ！　くぅー！
また射精たぁ！」
「あっ、あっ、流し込んでる！
また、葉月さんのおまんこに
オレの濃い精液、びゅくびゅく！」
ビュグッ
ドクッ
ビュグッ
ドクッ
ビュルッ
ビクッ
ドピュッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビュグッ
ビクッ
ビュグッ
ビュグッ
なっ なっ ナカで
K

ビクッ♪
ビクッ♪
ゴポォ♪
ブピッ♪
ビクッ♪
ビクッ♪
ゴポォ♪
ビクッ♪
どろぉ♪
どろぉ♪
どろぉ♪
どろぉ♪
どろぉ♪
ハァ♥ハァ♥
でたぁぁ♥ってっ♥
「はぁ はぁ うはぁ……
どろどろ……葉月さんに
オレの精液が……」
「これ たまんねぇ……」

「うはぁ、いっぱい零れてきた……」

「ありがと葉月さん
気持ち良かったよ」

「こんなにいっぱい
注いであげたんだから
ちゃんとオレの子孕んでね」

葉月さんを犯し終えると、
次の女の子を探すべく、オレは
再び会社内を探索し始めた。

R-18

テゴラユウキ

オレ以外の全人類時間が停止してしまった一人ぼっちの世界

～誰でも勝手に孕ませられる世界へようこそ～

oreigainozenninruizikanngateisisitesimattahitoribottinosekai
daredemokattenitharamaserareresekaiheyoukoso

時間が止まった世界で
セックスし続けるCG集
基本　八枚
合計枚数　百五十枚